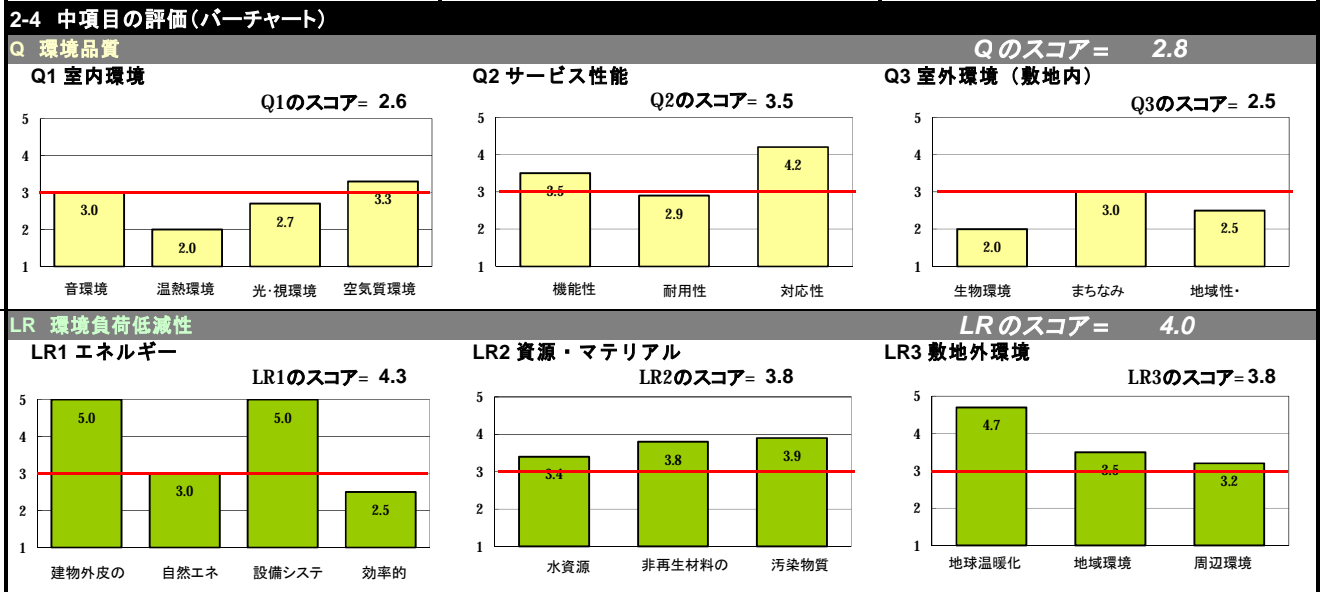
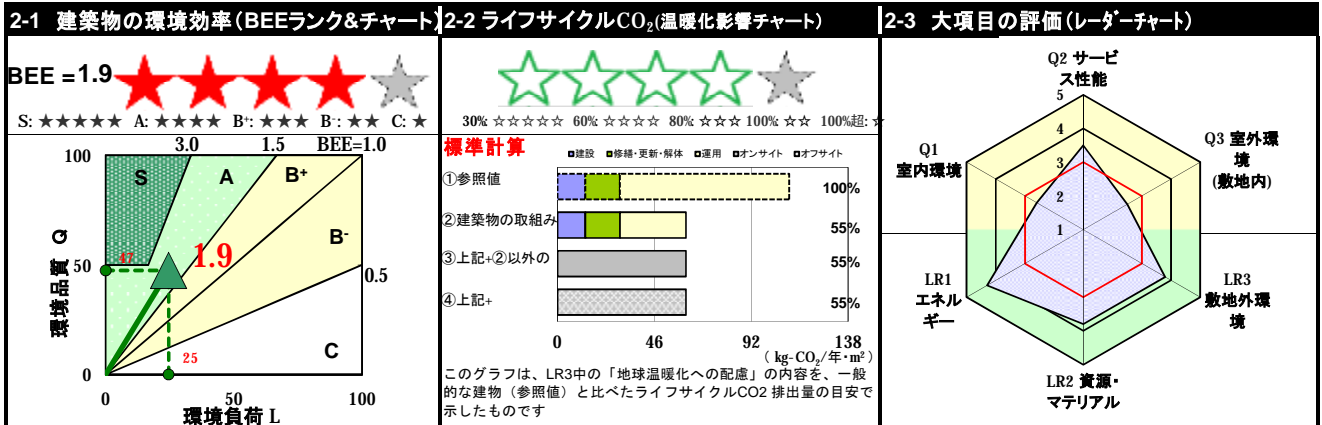


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)高槻市マルチテナント型物流	階数	地上4F
建設地	大阪府高槻市南庄所町	構造	RC造
用途地域	工業地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年7月 予定	評価の実施日	2022年12月1日
敷地面積	23,028 m ²	作成者	大林組
建築面積	14,303 m ²	確認日	2022年12月2日
延床面積	50,597 m ²	確認者	大林組



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>大阪府高槻市での大規模物流施設である。LED照明の採用などによる省エネルギーへの配慮や節水型機器の採用やエコマテリアル材の採用による資源保護に配慮した計画である。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室、休憩室には一部開閉の窓を設け、自然採光及び中間期の通風換気を確保。 ・外壁金属断熱サンドイッチパネル、屋根は二重折板とし、断熱に配慮。 	<p>Q2 サービス性能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各階ごとに休憩スペースを設置 	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地外周部の緑化により温熱環境の向上に配慮
<p>LR1 エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高効率設備を採用し省エネルギーに配慮 	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水機器を採用し水資源保護に努める ・断熱材はノンフロンとし環境に配慮 ・リサイクル材や再利用可能部材の使用により省資源に配慮 	<p>LR3 敷地外環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルCO₂排出量削減に配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0127

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)高槻市マルチテナント型物流施設プロジェクト新築工事					
	建設地	大阪府高槻市南庄所町					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					5	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.7	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		